



助川 鹿嶋神社

CONTENTS

■年頭所感..... 2~10	■相談所だより..... 24
■紙上名刺交換..... 11~17	■国・県・市からののお知らせ／..... 25
■新春特集：新春座談会..... 18~22	事務局職員紹介
■新年名刺交換会／常議員会／..... 23	■協賛広告..... 26~36

商工会議所の動き



発行所●日立商工会議所 〒317-0073 日立市幸町1-21-2
 発行人●鈴木昇 購読料●200円(購読料は会費の中に含まれています)
 TEL 0294-22-0128 FAX 0294-22-0120 ホームページ <http://www.hitachicci.or.jp/>

日立商工会議所 検索





「新時代で躍進」



日立商工会議所会頭 秋山光伯

明けましておめでとうございます。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

皆さまには、平素から日立商工会議所運営に、格別のご支援、ご協力をいただきありがとうございますことに厚くお礼申し上げます。

皆さまには、平素から日立商工会議所運営に、格別のご支援、ご協力をいただきありがとうございますことに厚くお礼申し上げます。

におきまして、会頭に再任いただきました。引き続きよろしくお願いいたします。引き続きよろしくお願いいたします。

全国旅行支援等の効果もあり、コロナ禍で急激に落ち込んだ経済活動も少しずつ正常化へと向うなか、資源・原材料価格の高騰や過度の円安継続等、複合的要因による物価上昇が国民生活や企業経営を直撃しています。とりわけ中小企業は深刻なダメージを受けており、ウクライナ危機の長期化や欧米のインフレ対策等による世界経済の鈍化への不安感も重なり、先行きの見通しは、不透明感が強く、依然として予断を許さない状況が続いております。

昨年11月の臨時議員総会 環境は、水際対策の緩和や 円安継続等、複合的要因に 当地域におきましては、



日立市の「ゼロカーボンシティ宣言」による脱炭素化社会実現への取り組みが始動されました。産業界とい

たしましては、本取組に参画し、理解を深め全体への浸透に努めてまいりたいと考えております。また、日立駅前商業街区の日立ショッピングセンターのリニューアルオープンでは、核となる店舗が決まり、今春のオープンに向けた諸準備が進められております。日立

の顔として重要な機能もございまして、地域住民の利便性はもとより地域活性化のため周辺事業者の方々とも協力してまいる所存です。日立市は、明治時代後半に日本鋳業さんの開業を機に東北地方から多くの方が当地に赴かれ、勤勉で忍

耐強い気質が今日まで連続と息づき、育まれ「ものづくりの精神」の礎となつてい

ると思つております。近年では、これまで牽引されてきた企業さんと新たに参入された企業さんも加わり、ものづくりの多様性をひろめ日立市の産業界を前へ進めていかれるものと確信しております。私ども地域の事業者も同じ方向を向いて進んでまいりたいと存じます。コロナ禍にあつて、

私たちを取り巻く生活や仕事のスタイルは一変いたしました。地方に居住しているながらに仕事ができるテレワークなど様々なスタイルが生まれました。日立市には、日立アルプスや海水浴場に代表される豊かな自然環境や温暖な気候、教育文

化の充実、何より安心安全で快適に生活、仕事ができるまちとしての魅力が数多くあります。新しい時代に合った良いまちでありますので、大いにその魅力を発信してまいりたいと思つております。

日立商工会議所では、「新時代で躍進」をスローガンに商工会議所本来の業務であります会員企業の皆さまのニーズ等を把握する巡回・窓口相談や税務相談、資金繰り、関係機関への要望活動といった基本的な取り組みをこれからも地道に進めてまいります。また、

昨今のデジタル化の進展は、業種業態に関わらず必須の事項と捉え、販路開拓や商談会、消費税等対策など、働き方改革への対応を

含め専門家による講習会などを通して、スタートの動機づけをしたいと考えております。

商業・サービス業関連では、日立駅前商業街区の賑わいづくりを積極的に支援してまいります。また、ウィズコロナに対応したデジタル応用による市内消費喚起策について関係機関を交え実践してまいりたいと存じます。

ものづくり関連では、GXによる社会経済システムの変革を大企業の指針を参考に理解を深めるとともに新たに創出される産業をビジネスチャンスと捉え準備を支援してまいります。加えて、デジタル人材の育成についても研究を深めてまいります。

観光振興関連では、このたび発刊の運びとなりました「ふるさと日立検定公式テキスト」を有効活用して日立市の魅力を観光関連団体と連携し市内外に発信し、日立市への誇りや郷土愛を醸成してまいりたいと思つております。

会員事業所の皆さまには、日々厳しい環境のなか、事業の継続と発展に向け、たゆまぬ努力を重ねておられることに、あらためて敬意を表します。新しい時代での躍進に向け、一丸となつて邁進してまいりたいと存じます。

結びといたしまして、皆さまの益々のご活躍ご発展を心からお祈り申しあげまして、年頭のご挨拶いたします。



日本再生・変革に挑む 志を高く、新しい時代を切り拓く

日本商工会議所会頭 小林 健

明けましておめでとうございます。

2023年の新春を迎え、

謹んでお慶び申し上げます。

はじめに

私は、昨年11月の会頭「就任時に「日本再生・変革に挑む」とした所信を表明し、「変革の連鎖」によって日本再生を成し遂げるために全身全霊を傾けることを会員の皆さまに誓いました。また、その後、全国各ブロックの商工会議所の皆さまや都内の中

小企業経営者と対話する機会を得て、「現場主義」と「双方向主義」を継承・徹底させていかなければならないとの思いを新たにしました。われわれ商工会議所は、今年も一丸となつて事業者の皆さまの声を適切に政策提言や事業活動に生かしつつ、地域経済、日本経済の発

展のために力を尽くしてまいります。

当事者意識を持ち自己変革を

さて、わが国は、過去20年以上にわたり物価、賃金、生産性がほぼ横ばいという停滞が続ぎ、先進諸国に比して相対的に競争力は低下しています。さらに、昨年、コロナ禍に加え、ロシアのウクライナ侵攻、世界的なインフレなど、大きな環境変化が次々と押し寄せ、極めて予測困難な状況が続いています。

本年は、こうした大き

な環境変化に対応しつつ、人口減少や少子高齢化、

社会保障費の拡大、財政赤字、人手不足、エネルギー問題、さらには加速

するデジタル化やグローバル化への対応などの構造的課題にわが国が正面から取り組み、成長軌道に戻していくための重要な年になると認識しています。足元では、複合的な要因による物価上昇・円安の影響で中小企業は厳しい状況に置かれています。企業が成長の原動力であるという当事者意識を持ち、

現実を直視し、果敢に自己変革に挑まなければ、この時代を生き抜くことはできません。今こそ、

この時代を生き抜くこと

はできません。今こそ、

洪沢栄一翁の「逆境の時こそ、力を尽くす」という信念に学び、企業経営者が積極的に行動を起こしていかなければなりません。私は、経営者の責務は、経済価値、社会価値、環境価値の三つを同時に追求すること、即ち社会に責任を持ち、貢献することだと考えています。中小企業は、変化に対する柔軟な対応力を有しており、経営者と現場の距離

り、経営者と現場の距離

も近く、経営者の理念を共有しやすい土壌があります。中小企業こそが自己変革と地域貢献・社会貢献の主役であり、日商の会頭として、私が先頭に立って自己変革に挑戦する中小企業のイノベーション創出と付加価値向上を通じた成長を支援、大企業と中小企業が共存共栄できる社会を目指していきますと考えております。

企業の挑戦を支える環境整備を

一方、政府の重要な役割は、企業の挑戦を支えるための環境整備にあります。特に「民間投資の強力な推進」「持続的に賃上げできる環境整備」「サプライチェーンの強靱化と経済安全保障」「多様な人材が活躍できる国づくり」

の四つの対応を政府には求めたいと思います。資源を持たないわが国が持続的に成長するためには、競争力のある「科学技術創造立国」としての地位の確立を目指し、成長のエンジンとなる新たな産業分野へ投資を強力に促進していくことが不可欠です。そのためにも、政府は、新しい資本主義の重点投資4分野における官民の適切な役割分担、リスクシェアリングを図り、企業の成長期待を高めるとともに、十分な規模の政府支出、税制、民間投資を促す大胆な規制改革に取り組んでいただきたいと思えます。

エネルギーに関しては、安定供給の確保とともに、2050年カーボンニュートラル実現に向け、

GXの活用や原子力を含むエネルギー政策を政府が前面に立って推進することが求められます。さらに、中小企業が賃上げできる環境整備に向けて、取引価格の適正化、デジタル化の推進等、生産性向上への支援強化が必要です。生産拠点の国内回帰を含め、多様化する供給網の整備も急務であり、企業の予見性を高め、自由な経済活動を阻害しない経済安全保障に取り組みべきであると考えます。

志を高く、新時代を切り拓く商工会議所に

商工会議所としては、地域の第一線で活躍する会員企業の皆さまと共に、こうした課題や変化をタイムリーに察知し、商工会議所自らも変化に対応できる強い足腰を鍛え、

「中小企業のイノベーション創出・成長支援」「大企業と中小企業の共存共栄の実現」「人と企業が輝く地域の創造」の3本柱の実現に向け、全力で取り組んでまいります。

昨年、日本商工会議所は100周年を迎えました。次の100年に向けて、本年が、「日本再生・変革に挑む」ための力強い一歩を踏み出す年となるよう、スピード感をもって実行していく組織、志を高く、新しい時代を切り拓いていく組織を目指してまいります。皆さまの一層のご支援とご協力を心からお願い申し上げます。



今年は何年



今年は何年。うさぎは干支の4番目、ウサギ科の哺乳類です。うさぎという耳が長く、目が赤く、毛は白、ピンピンと跳ねる動物を思い浮かべますが、これはわたしたちがよく見る日本白色種で、ほかにも多くの種類があります。

うさぎの話は、古くは「古事記」に発しています。うさぎが海の上に並んだワニザメをだまして困憊(いんぱい)の国に渡ろうとしています。しかし、最後にワニザメの怒りを買ってしまい、皮をはぎ取られて苦しんでいるうさぎを大國主命(おおくにのみこと)が救うというお話です。

だれも知っているうさぎの話といえば「うさぎとカメ」です。うさぎとカメが向こうの山まで、どちらが先に行けるか競争します。早いうさぎは、カメがのろいを見て途中で油断して昼寝をしてしまいます。その間にカメがゴールするというお話で、地道に努力すれば必ず成功するという教訓です。

うさぎは悪役だったり英雄だったり、だまされたりだまされたり、いろいろな役回りをこなしています。いずれにしても昨年も明るい話題の少ない年でした。今年は何年かのように、皆さまな役回りをこなし、この難局を元気に飛び跳ねたいものです。